

座間市いっせい防災行動訓練

シェイクアウト プラス1 2020 in ZAMA

《実施報告書》

座間市（危機管理課）
ざま災害ボランティアネットワーク

*** 訓練概要 ***

1 訓練名称

座間市いっせい防災行動訓練（シェイクアウト プラス1 2020 in ZAMA）

2 日時

令和2年1月23日（木）午前11時00分

※代替期間として令和2年1月4日（土）～31日（金）

3 場所

座間市内全域

4 訓練想定

令和2年1月23日（木）午前11時00分

都心南部直下地震（市内最大震度6強）の発生を想定

5 主催

座間市、ざま災害ボランティアネットワーク

協力：効果的な防災訓練と防災啓発提唱会議（ShakeOut 提唱会議）

6 参加者

市内在住・在勤の個人・家族、自主防災組織・自治会、保育園、幼稚園、学校（小・中・高等）、医療・福祉関係、企業、防災関係機関、官公庁関係、その他団体

7 目的

「生き残らなければ・・・何も始まらない」 災害発生時に我が身を守る安全行動を身に付け、自助・共助による地域防災力の向上を図る。

8 訓練内容

【訓練の開始】

令和2年1月23日（木）午前11時に防災行政無線からのサイレン吹鳴

（事前に防災行政無線・音声自動応答サービス・いさまメールで『訓練』と周知する。）

【プラス1訓練】

- ・避難訓練 ・安否確認 ・備蓄物資の確認 ・初期消火 ・住居、施設等の安全点検
- ・災害用伝言ダイヤル（NTT）



2020ポスター

*** 実施状況 ***

《事前登録》

1 登録期間

令和元年11月1日（金）～令和2年1月22日（水）

2 登録方法

市ホームページ、ShakeOut 提唱会議ホームページ、公共施設等で配布する参加予定登録票の持参・FAX、電話による受付

3 事前参加登録者数

54,621 人 (341 件)	※目標 50,000 人	達成率 109%
-------------------------	--------------	----------

【登録件数】

区分	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	対前年増減
個人	70	31	132	217					
家族	54	30	23	45	57	32	27	35	8
自主防・自治会	54	57	117	123	119	161	127	145	18
任意の団体	9	10	10	10	8	4	2	4	2
保育園・幼稚園	18	28	30	31	33	34	32	39	7
学校	6	21	21	21	21	21	21	21	0
医療・福祉関係	18	35	38	20	35	15	23	30	7
企業	32	54	69	36	29	21	34	32	△2
官公庁	1	19	15	16	18	26	22	27	5
その他	30	21	17	12	12	14	12	8	△4
合計	292	306	472	531	332	328	300	341	41

【登録者数】

区分	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	対前年増減
個人	103	36	132	217					
家族	148	82	56	130	138	66	53	87	34
自主防・自治会	9,027	12,104	23,662	24,851	24,644	27,785	24,408	25,785	1,377
任意の団体	522	149	95	345	802	36	150	93	△57
保育園・幼稚園	3,328	3,863	3,876	4,192	4,096	4,094	3,886	4,206	320
学校	12,697	12,893	13,316	13,132	12,450	13,067	13,076	13,046	△30
医療・福祉関係	935	2,364	1,993	1,423	1,925	957	1,053	1,266	213
企業	2,058	3,624	5,378	4,866	5,872	3,550	5,530	3,758	△1,772
官公庁	1,396	2,354	2,026	2,603	2,260	2,336	2,093	2,161	68
その他	2,175	5,707	2,219	1,147	928	913	4,109	4,219	110
合計	32,389	43,176	52,753	52,906	53,115	52,804	54,358	54,621	263

4 事前周知活動

- 市ホームページに情報掲載（11月1日～）
- 広報ざま掲載（1月15日号）
- 市長定例記者会見（1月8日）
- 公共施設等へのポスター掲示、チラシ配架（11月～）
- 自治会回覧（12月）
- 商工会会報へのチラシ封入（1月）
- マスコミ向け情報提供（11月、1月）
- 各種団体への電話連絡（12、1月）

《事前学習》

効果的なシェイクアウト訓練を目指して、総務省消防庁の「災害伝承10年プロジェクト」から防災減災危機管理アドバイザーとして活躍する吉田亮一氏を講師として招き、『防災講演会』を実施するなど、事前学習を実施した。

1 防災講演会の実施

日時 令和元年10月28日（月） 午後1時30分から4時まで

場所 ハーモニーホール座間 小ホール

内容 【第1部】

○基調講演

「地域防災活動とは 東日本大震災、あの日あの時」

～日々の防災活動で災害に勝つ 災害への危機感と想定以上の備え～

講師 YY防災ネットワーク代表／おひさま保育園理事長

吉田 亮一 氏

【第2部】

○シェイクアウト キックオフ宣言

説明者 ざま災害ボランティアネットワーク 濱田 政宏代表

宣言者 座間市長 遠藤三紀夫



講演会の様子

市長によるキックオフ宣言

2 その他

- 市民向け防災・減災講座の実施
- ぼうさい・カフェの実施（1月16日～1月21日）
- 自治会等防災講話

《訓練》

1 訓練進行

- 9：00 いさまメール・ツイッター配信（訓練実施告知、予告）
| 市役所庁舎内放送（訓練実施告知、予告）
- 10：50 防災行政無線放送・音声自動応答サービス（訓練実施告知、予告）
- 11：00 訓練開始【安全行動の実施】
防災行政無線放送（サイレン吹鳴）・市役所庁舎内放送（訓練放送）・館内消灯
- 11：01 市役所庁舎内放送（訓練終了放送）

2 安全行動（基本行動）

その時いたその場で、1分間、身を守るための安全行動を実施



座間市役所（1階ホール）



事業所



保育園



中学校

3 プラス1訓練

身を守るための安全行動をするだけの訓練ではなく、より実践的な訓練とするために、基本行動で身の安全が確保できたら、次にとるべき行動をプラス1として考え、その中で、参加者単位でできる範囲の訓練を『プラス1訓練』として実施した。

【実施されたプラス1訓練】

- ・避難訓練
- ・備蓄物資の確認
- ・施設（建物）安全点検
- ・安否確認
- ・初期消火訓練
- ・業務継続計画遂行訓練
- ・NTTの災害用伝言ダイヤル体験利用



事業所（安全点検）



病院（通信訓練）

【市（市職員）のプラス1訓練】



災害対策本部訓練



災害対策本部機能移設訓練（消防庁舎）



関係機関等連絡調整会議



河川事故（油等流出）訓練



重要給水施設への給水対応訓練



消防による情報収集、指揮活動訓練



総合防災備蓄倉庫における物資搬出訓練

- ・災害対策本部訓練（災害対策本部機能移設訓練）
市役所庁舎が使用できないことを想定し、代替施設である消防庁舎にて災害対策本部会議を実施
- ・災害対策本部訓練（関係機関等連絡調整会議）
災害対策本部会議の指示を受け関係機関等が集まり、応急対策について調整・情報共有する会議を実施
- ・河川事故（油等流出）訓練
河川における事故を想定し、オイルフェンスの使用方法及び事故対応手順を確認
- ・給水対応訓練
断水を想定し、重要施設（病院）への水の供給手順について確認
- ・総合防災備蓄倉庫における物資搬出訓練
備蓄品や資機材を集中管理している、総合防災備蓄倉庫にて資機材の使用方法及び搬出手順を確認

上記の訓練の他にも各所属にて通信訓練や業務継続計画に基づく訓練を実施

《ふりかえり》

1 事後確認

訓練（安全行動・プラス1）実施後、改めて身のまわりの危険箇所や、訓練内容の確認・検証などを、写真等の記録を活用しながら実施

2 訓練実施アンケート

Eメールアドレスの登録がある参加団体や、直接依頼可能な参加団体に対して、訓練実施後にアンケートへの協力を依頼

- 回答件数 107件
- 集計結果 資料2 参照

3 訓練実施報告会

新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止（実施報告書を配布）

*** まとめ ***

第8回 座間市いっせい防災行動訓練（シェイクアウト・プラス1） 協働団体としての取り組み活動と今後の課題

ざま災害ボランティアネットワーク

① シェイクアウト プラス1 2020 in ZAMA 訓練への取り組みについて

「第8回 座間市いっせい防災行動訓練」は、座間市民そして市職員の減災・災害対応への熱意と関係団体の協力、ざま災害ボランティアネットワーク（ZSVN）メンバーの熱意により6年連続して訓練の事前参加登録人員数が、5万人を超えることができました。

今年度のシェイクアウト訓練のスタートとなる「キックオフ講演会」は、主に吉田亮一氏をお招きしての講演でした。氏は3・11の時に現地の災害避難所からの実践的な学びを普及することを目的に活動されていることは存じていましたが、私たちにはやや違和感がありました。しかし、担当部署の方が協議をされて決められていたようでしたのでそれを実施していただきましたが、講演前に、ご本人が市内学校に営業のような活動をされて、確認はしておりませんが、入谷小学校などで授業をされたようです。この行為は、当然、危機管理課が把握していなければならないことだと思いますが、その点に今一つ疑問を感じました。講演者は座間の地に生かされる体験をお持ちの方が良いと思います。

ざま災害ボランティアネットワークは、例年の通りシェイクアウトの意味、訓練の方法などについて説明をさせていただき、避難所に行かないで済む状態を作ることこそ、災害の被害が少ないまちづくりになるということをお話させていただきました。その後、座間市長の発声で「シェイクアウト・キックオフ」の三唱で訓練参加事前登録の開始を宣言しました。

年度初めから、各所から講演や訓練指導の依頼を受けて、ワークショップ（発災後の3：3：3）を中心に取り組み、その中で必ず緊急速報対応行動訓練をしてきました。これは大切なことだという思いで愚直に取り組んでいます。危機管理課の出前講座の内容は詳細を承知していませんが、このシェイクアウト対応訓練は絶対に外してはいけないと思います。やはり、協働事業を中心に市民防災啓発事業を推進している以上は同じレベルの内容で行う必要があるのではないかと感じました。

シェイクアウト講演会の後、可能な限りのPR活動、講座、防災カフェなどを通じて訓練参加の呼びかけを行った結果が54,621名という数字が生まれたと思います。6年間継続し

て昼間人口の50%を超える登録者数を得ることが出来ました。全国でかなりの自治体がシェイクアウト訓練を導入していますが、座間市ほど愚直に取り組んでいる自治体はありません。

しかし、ここにきて残念な現象が出てきています。5年前ぐらいまでは、市もシェイクアウトに関する普及活動は、年間を通じて力が入っていたと思います。市内の出前講座などでシェイクアウトとは何なのか？ということ折に触れて話していたと思われま。自治会に対してもシェイクアウト訓練の大切さというものを伝えていたと思います。事業所へのPR活動をする際にはZSVNのメンバーも同行して、市民と共に取り組んで活動をしていたと感じます。ここ数年、これらのPR活動が弱くなっているように感じていましたが、今年度はイオン座間へのPR活動に代表が同行させていただき、イオンさんも取り組みを理解してくださったと思います。その成果として、「まちなか 防災体験企画展」のイベントをイオンさんと企画し準備を進めていましたが、コロナウイルスの規制で実施直前に中止になってしまいました。残念ですが引き続き取り組みを続けてきたいと思います。

昼間、多数のお客様が来店しているコストコ、三和、フードワン、ビバホーム、市内コンビニなどへの訓練への取り組みを普及する必要があると感じます。この中でも「ダイエー」様は積極的に訓練実施を呼びかけてくださいます。もう少し商業施設へのアプローチの強化が必要だと思ひます。

昨年の報告書にも書かせていただきましたが、大きな課題は定年退職して地元に戻られた方々にこのようなイベントの取り組みについての情報がほとんど周知されていないことです。シェイクアウトなどについての情報は全く「ゼロ」だと感じます。さらに、シェイクアウトの導入時には、各学校でも保護者に対しても喚起をしていましたが、最近はその取り組みもないように感じています。確かに、自治会などはシェイクアウトには参加していますが、我々が期待している「プラス1訓練」が行われている例は少なくなっているように感じます。新しく市民なられた方々は、ほぼこの訓練を知らない状況です。それは小学校のPTAからの防災減災の講座に呼ばれたときに明確に浮かびあがっています。かつては、多くの保護者が訓練に積極的な行動をとられていましたが、3・11の記憶の風化に伴うように新しい保護者の方はシェイクアウトって「なに？」という感じの方が増えているように感じられます。再度、我々や危機管理課、さらには教育委員会が連携して取り組んでゆく必要があると考えます。

② 取り組みのプロセス

令和2年1月16日から1月21日の4日間 市役所1階の市民サロンのスペースを使い協働事業である「第11回 ぼうさいカフェ」を行いました。展示方法は「話や文字」ではなくリアルな備えを感じてもらえる体感展示・ミニ講座などに取り組み期間中400余名の来場

者がありました。また、今年度は展示パネルも一新して統一感ある展示を心がけました。

ZSVNは、年間の減災、災害対応活動に関する様々な取り組みの総決算としてシェイクアウト訓練があるというシナリオを立てて進めてきました。

イ 「防災」から「危機管理（市民のリスク管理）」への啓発活動に取り組みました

私たちは災害を広くとらえて、単なる気象災害のみならず社会的要素から発災する災害、人為的な要素から発災する災害など総合的にとらえて「人にとって良からぬもの、被害者があるものは災害である」という思いで講座や訓練を薦めてきました。単に「防災」という領域にとどまらず、最近の社会全体を覆っている「不安」な空気感を「わざわいの種」として表現し伝えてきました。協働事業における各種セミナーや、出張講座、学校防災授業などの場で「危機管理（リスクマネジメント）」という広い概念で伝える試みにも挑戦し、社会の中の安全・安心はどのようにしたら構築できるかについて伝えてきました。まさしく現在進行中の「新型コロナウイルス」のようなのがもたらす「パンデミック」も「災害」であるということをお話してまいりました。ローリングストックが大事なことも話してきましたが、残念ながら浸透していないことが今回のトイレトーパーやマスクの買い占め行為に表れているのだと思います。奪い合えば足りなくなる、分け合えば十分であるはずなのです。常に備えようということが習慣化しなければならないのです。

ZSVNの存在の原点は、県央地域で大規模な被害をもたらすような災害が発生した時に、座間市の被災者の方々に助けてくださる災害救援活動ボランティアを可能な限りスムーズに受け入れて「助けて情報」と「助けたい情報」を突き合わせて、安全で安心できるボランティアを受け入れて、被災者の方々のもとに送り出す活動をする事です。そのために座間市社会福祉協議会と連携して活動をしています。これもシェイクアウトで守ることのできた「いのち」があってこそその行動であり、生き延びることができるための第一歩につながる活動だと思えます。

災害救援ボランティアセンターは、基本的には基礎自治体単位で組織し、社会福祉協議会を中心として地域防災ネット、自治会、自主防災会、市内で活動をしている福祉関連ボランティアなどの団体が連携して運営することになっています。昨年度から座間市社会福祉協議会と公益社団法人日本青年会議所座間支部（JC）が災害時の協定を締結しました。このような市内で事業を行っている団体との連携は、万一発災した時には強い味方になってくれると思います。

ロ 「災害」が起きる前の「減災活動（行動）」の必要性を伝えました

私たちは自主的な活動のほか、行政（座間市など）との協働事業や、そのほか委託事業、連携、協賛、協力などを活用し活動しています。その活動の中心は「いのち」を守る行動の浸透

です。座間市の活動の成果は目を見張るものがあります。それは、私たちが他市町村に出かけて講座や訓練をすると如実にわかります。座間市ではシェイクアウトの合図である「緊急地震速報」のチャイム音や「だんごむし」の合図を出すと見事に身を守る行動に入ります。しかし、このような訓練を行ってない市町村では「きょとん」とした顔をしてお互いに顔を見合わせ、「体を守って！」という合図でようやく動きだす状況です。いつ来てもおかしくないといわれている「都心南部直下地震」が起きた時に、座間市の人的被害は少ないと確信をしています。

複雑なことは必要ないと考えています。まずは耐震診断を行い、その診断結果に応じた対策を講じること。家具の固定、ガラス類の飛散防止対策を確実に行うことです。地震災害をはじめ、身の危険を感じた時は、瞬時に「命を失わない」、「けがをしない」という行動をとり「火事を出さない」ことが大切だと考えます。さらに突き詰めれば、《持ち出すものは「いのち」だけ》なのかもしれないと思います。

ハ 災害後を乗り切るために必要な技（対応力）の養成と拡散に努めました

市民の備え、すなわち「自助」には限界がありますが、発災後生き抜くために何よりも「必要なこと」を4つにまとめ伝えてきました。それは、

- i 「出す（排泄の備え）」
- ii 「飲む（水の備え）」
- iii 「食う（食料等の備え）」

そして首都圏が大きく損壊すると予測されている「都心南部直下地震」を考えたとき、iv 「正しい情報収集力の確保＝電力の自助）」の必要性を伝え続けました。

「都心南部直下地震」が起きた場合を想定し、神奈川県くらし安全防災局が作った「想定シナリオ」を読んでも、県下の被害は今まで掲げてきた数値と比べても「大きくなる」ことを示しています。特に、電力をはじめとするインフラの復旧作業は首都や県庁所在地が優先されません。そうなれば、首都周辺の衛星都市のインフラの復旧は遅くなると考えて備えておかなければなりません。

今年度も協働事業 市民防災啓発事業の「体験型訓練」をはじめ、「街角ぼうさいカフェ」を市内各所で取り組みました。会場には実際の便器の模型、家具固定サンプル、災害食の体験と必要性、飲料水、生活用水の備蓄と不足した時の対応、電気が無くなった場合の生活の不自由さについて、できる限り「見える化」して展示を行い、災害対応の必要性について伝えました。

私たちは被災地に入り支援活動する中で、被災者の体験談をたくさん聞いてきました。その

一つが、「音」でした。夜間の発電機の音は、それが電気（灯り）を作るために必要なことを理解していても必ずクレームとして出てくるという体験談から、太陽光蓄電システムである「マイ発電所プロジェクト（太陽光蓄電）」の活動に取り組んできました。令和元年度は通算 8 回目のワークショップを行い、累計約 70 セットの機器を展開すること（電力の自助）ができました。

協働事業の講座・訓練の場でも行政と相談の上、正直に活動団体から見た行政の災害対応力の姿を伝えるようにしてきました。災害時には「行政」も被災者になる危険性が大きいことを伝え、最低限 3 日分できれば 7 日分の生活を維持する物資類は「自助力」（市民の責務）であること、避難所は簡単に開設できないこと、避難所の生活は過酷なことを伝え、避難所に行かなくて済む「備えのある生活」こそが「究極の自助」であることを伝え続けていきます。

二 防災教育への積極的な参加…伝承活動

私たちは、次代を担う子供たちの「いのち」を守ること・・・教育機関などにおけるシェイクアウト訓練の徹底に取り組んできました。仮に座間市が大規模に被災したとき、復旧・復興に取り組み、新しいふるさとを創造して行く力は、いま学校で学ぶ子供たちの手の中にあると考えています。この子供たちに、恐れずに正しい危機管理の必要性、大切さ、自分たちに期待されていることを具体的に教えることが絶対に必要だと考えます。

幸いに今年度も、様々な教育機関など（幼保・小中学校、高等学校など）から活動の場をいただき「防災教育」のお手伝いをすることができました。今年で 8 年目となった県立座間養護学校教職員の方が中心となって実施された防災訓練の取り組みは、素晴らしく進化（深化）しており印象的でした。先生方が自発的に校内での避難所について真剣に取り組まれるようになったことに感動しました。この活動のつながりの結果が、課題となっていた座間養護学校と座間市との災害時二次避難所協定の締結に繋がったと考えています。座間高校でも学校が主体となった宿泊訓練が行われました。さらに、当団体も座間市自立支援協議会のメンバーに入れていただけることで要配慮者への支援体制について取り組む道が出来たように感じます。

私たちが学ぶべきことは 25 年前の 1 月に発災した「阪神淡路大震災」の中にある教訓だと考えます。座間市は県内 4 番目の人口密度を持つ自治体です。相模が丘地区、ひばりが丘地区から相模原市及び大和市に続く一帯は「木造住宅密集地域」として神奈川県も注意喚起を行っています。万一、地震災害で火災が発生したら最悪の場合「糸魚川大火」「酒田市大火」を再現することになると思います。何よりも出火防止と初期消火活動が重要だと考えます。

従来から初期消火方法を伝えるために体験訓練の中に「バケツリレー」の方法を取り入れました。しかし、その先にある「消火」の対象となる「発火点」がコーンのようなもので代用されていることから「消火の実感がわからない」と考え、協働事業の体験訓練に LPG を使った簡易型の発火装置を使った体験訓練を実施しました。この訓練を消防本部にも体験していただき

その結果、昨年度訓練機材が導入され「ざま災害ボランティアネットワーク」には、貸し出しをしていただけるようになりました。この機材を借用して今年度も体験型訓練、児童ホーム指導員消火体験などを実施しました。

ホ 自分たちの町は自分たちで守る・・・「お互い様助け合い活動」の啓発

私たちは、平成22年度より年2回（夏・冬）座間市社会福祉協議会と協働して「災害ボランティアセンター開設・運営訓練」を続けています。しかし、首都直下地震発災時に、過去の災害救援活動と同質のことができるかについては極めて困難だと思います。阪神淡路大震災、中越地震、東日本大震災のいずれの場合でも、被災（量）＜支援（量）という関係が見て取れます。過去の災害で被災者への初動の支援の基地となる「災害救援ボランティアセンター」が機能したのは支援者が多かったからです。首都圏域が被災した時、その関係は、被災（量）＞支援（量）となることはすでに関係者からも強く指摘されています。

座間市にも昔は「結（ゆい）」という仕組みがありました。近所で困っている人を、力のある人々がまとまって、力を出し合って助け合うという考え方です。時代と共にこのような習慣も途切れてしまいました。それに代わる仕組みが平常時では「自治会」であり、災害時には「自主防災会」だと考えますが、それも輪番制で行われるため、地域にノウハウが蓄積されず、常に前例主義的な活動で終始しているように感じています。そこで座間市社会福祉協議会の分会として各地区で活動している「地区社協」の活動につながって、消防団や地域防災推進員のような「ボランティア活動者」が担うほかはないと考えました。その結果、座間市社会福祉協議会とZSVNで始めたのが「市民同士のお互いさま支援」です。

今年度も3年目となる座間市社会福祉協議会主催の「災害救援ボランティアセンタースタッフ養成講座」を、小田急相模原駅前にできた「プラっと座間」にて行い、現役の市民の方々をはじめ、JCとつながって被災時の助け合いに向かう取り組みを行いました。このような力が市内に蓄積されることが、地域の減災力・支援力の向上につながると考え、引き続き支援をしたいと考えます。

恒例の冬期「災害救援ボランティアセンター」の開設・運営訓練は、コロナウイルスの規制のために中止となったため、また日を改めて取り組みたいと考えます。ボランティア活動者の力で地域を作り上げる方式が定着し始めているような機運が出来てきたと感じています。

③ 訓練を通じて見えてきた今後への課題

私たちは、避難所運営委員会設置事業の積み残し部分の活動にはスケジュールの調整のつく範囲で協力をさせていただいてきました。しかし、まだ避難所運営委員会が未設置の学校が2校あります。引き続き協力していきたいと思えます。

近年、若い世代、高齢世帯では新聞を購読する人が減少してきました。そのため市役所の発行する「広報ざま」を目にする機会も減り、また唯一のニュースとして効果力を持っていた「タウンニュース座間版」が3市統合版になったため、座間市の記事が減り広報力が下がってきたと感じています。若い世代は、自分が必要な情報はネットで収集する習慣が広まり、「検索」という行動で自身が興味ある情報しか見ないという傾向がみられます。新聞は広げると様々な記事が目飛び込んできて、物事を判断する基準や行動力に一定の効果があったと思えます。それでいて地元の重要なニュースが流れる「いさまメール」「市役所ツイッター」などへの登録はしていないことも見えてきています。

一方で、ネットを敬遠する世代もあります。仕事の上では止む無くパソコンを使っていたが、定年後はもう結構ということらしいのです。男性は仕事中心で生きてきたため地元との人間関係の構築ができにくく、自治会活動も面倒ということから、自分の趣味だけに閉じこもる方も多く見られます。地元という意識が薄れた中で「災害」が起きた場合に、このような市民の方がどのような行動をとるか予測することが非常に難しくなることも心配です。

「いのち」を守った後、やみくもに避難所に向かわれても困る事態が起きます。市民の災害時の行動について、対応する行政の現場対応者、避難所運営委員会、地域防災推進員、自治会、自主防災会の役員の人々をどのように支援し、秩序ある行動がとれるよう養成する重要性も見えています。高齢化社会だから…という言葉でごまかすだけでは被災者は増えるだけです。

④ 終わりに

今年度も多くの災害がありました。ZSVNは座間市社会福祉協議会と連携して、9月の千葉県
の風害による停電並びに多数の屋根の破損による被害者の救援活動に参加して、具体的な活動を行って
きました。発端は、「公社SL 災害ボランティアネットワーク千葉ネット」が千葉市の千葉県災
害救援ボランティア支援センターの基幹要員としてはいったことです。この組織のコントローラー
として活動に取り組みました。千葉県の房総地域に災害ボランティア組織が確立されておらず、情
報の発信、収集力が見えない状況に陥り、急遽支援センターから「ざま災害ボランティアネットワ
ーク」に対して要員派遣要請がありました。座間市社会福祉協議会に相談をさせていただき、9月
18日に富津市の災害救援ボランティアセンターに入り、ボランティアセンターの設営・運営の指
導に当たりました。被害が想定を上回ったため、座間市社会福祉協議会は特別に富津社協と支援協
定を締結して職員派遣を行い、9月末日まで活動を続け富津市ボランティアセンターを軌道に乗せ

ることが出来ました。これも、S Lという組織のつながりが功を奏したものと思っていますし、常日頃から災害ボランティアと連携して活動をしてきた成果だと思います。

また、今年度は座間市でも大雨により津久井湖の城山ダムが緊急放流をし、相模川流域の水位が上昇をするという事態が発生し、座間市も開^{かいびやく}關以来の「災害対策本部」が立ち上げられ、1号配備が行われたのちに特命班の召集が実施され、緊急的に市内のコミセンを中心とした避難場所が開設され、避難準備情報が出されました。その後、2号配備に引き上げられて避難勧告が出されました。Z S V N代表は非公式でしたが1号配備の際に市役所に常駐させていただき、災对本部の活動、避難所開設、受け入れについても職員の方へのアドバイザーとしていくつかの避難所へメンバーを派遣しました。結果、1038名という市民が自宅を離れて避難場所へ入ることになりました。その後、水位は危険な高さに迫りましたが、時間とともに下がり対策本部も解散するに至りました。

災害といえば地変災害に目が向いていましたが、相模川という大河を擁する自治体として浸水対策の重要性をまざまざと感ずることが出来たのは、ある意味では良い経験になったと考えます。その直後から他山の石の例えで、Z S V Nと社協、座間市の3者で「災害救援ボランティアセンター運営マニュアル」の改訂を行い、次の災害に備えることに取り組みました。

過日の座間市防災会議でも、提言ということで5つの課題に対して提案させていただきました。特に、避難所（一次避難所）の開設にあたっては、体育館のレイアウトも必要ですが、バックヤードとなる校舎内の特別教室などの指定が必要になります。これは、大空間では生活を継続することが困難な要配慮者を受け入れるためのスペースです。これが出来て初めて避難所の受け入れが開始されます。現行のマニュアルはその部分が記述されていません。一次避難所には要配慮者も受け入れられることを市民の方々に理解していただくことが大事です。さらに、県の通知によるマニュアルの改訂がなされていないことも指摘させていただきました。避難所の運営は避難所ごとに異なる部分があります。これは、施設自体が持つ固有の課題を乗り越えるためのものと解しますが、全避難所が同一の意識レベルになる必要があります。そのための職員研修や市民との合同の研修などについても再度実施して欲しいという提言もさせていただきました。

内閣府、厚労省は、避難所運営の基本的な視点として、男女共同参画事業の思いを持って災害のことを考えることを求めています。残念ながら座間市の担当ではその意識はあまりなく縦割りの仕組みで災害対策は危機管理課の仕事という感覚で見えています。ぜひ、男女共同参画の担当部署も、被災地で女性の方々がどのようなつらい思いをしてきたかということに思いを寄せて災害を「わがこと」と受け止めてこの課題に積極的に参画して欲しいと思います。

私たち、Z S V Nの「たい焼きプロジェクト」は、2月中旬に宮城県丸森町の水害被災地に入り仮設住宅の入居が終わり一段落した被災者の方々に「たい焼き」を通じて「笑顔と元気」を届けに行っていました。これらの活動の資金は、私たちが市内のイベントに出店させていただくときに、「たい焼き」をお買い上げいただいた売上金を充てていることから、座間市民の気持ちを届けて

いるという思いで活動をしています。今後ともご協力をお願いします。

また、座間市消防本部の協力を得て、私たちメンバーが研修や訓練を受けている災害救援ボランティア推進委員会が行う「災害救援ボランティア講座(県央・相模原)」(3日間コース)を年2回、特別料金で開催しています。この講座へ地域防災推進員の方が積極的に受講され、現在の当番制での活動ではなくボランティアとして長く活動に従事されることを願っています。

ざま災害ボランティアネットワークは、2008年7月に発足しています。満10年の活動を無事に終えました。これも行政をはじめ座間市社会福祉協議会などのご尽力によって到達したと思っています。

今年度のスタートは10周年の活動報告会を開催して多くの方に参列をいただくことが出来ました。これも、市民の方々の暖かいご支持、関係機関のご支援がなければできなかったと思います。厚くお礼申し上げます。

今後とも微力ですが、災害の現実を謙虚に見つめ、教訓を学び「安全・安心のまち・・・座間市」の実現に向けて市民団体として引き続き取り組んでいこうと考えております。

以上

《座間市としての『成果・課題・今後』について》

座間市市長室 危機管理課

シェイクアウト プラス1 2020 in ZAMA まとめ

座間市で8回目となるシェイクアウト訓練の参加登録者数は、54,621人でした。2015年から6年連続で5万人以上の参加登録を受け、実施することができました。シェイクアウトは、地震発生の瞬間に適切な行動をとることを習慣づける訓練であり、座間市は「生き残らなければ、何も始まらない」を防災のスローガンとして掲げ、自助の大切さを呼びかけ、シェイクアウト訓練が広く受け入れられるようになりました。

シェイクアウトの導入により、ハード的な大きな投資を行う事なく、市民、職員の意識改革というソフト対策により、本市の災害対応能力の向上を実現し、結果として防災の先進市、シェイクアウトの成功例として評価を受けることができました。これまで培ってきたシェイクアウトへの取組みは、市全体の財産となり、防災対策が進んだと言えますが、対策が進んだ故に新たな課題も浮かんできたと思います。

防災力は、市民の警戒心（災害への関心）＋災害対策が合わさり、初めて「力」として発揮されます。災害対策が十分でない場合は、災害への警戒心が高まります。東日本大震災直後からこれまでは、災害への警戒心が高い状態が続き、この8年の間に行政だけではなく、社会全体で災害対策が進められてきました。

座間市においては、シェイクアウトが普及し、避難所開設訓練が各地で行われ、ハード面では、避難所へのマンホールトイレの設置や旧消防庁舎を利用した総合防災備蓄倉庫を整備するなどの災害対策が進みました。結果として災害への警戒心が安心へと変化し、それに反比例して災害への警戒心、関心は低下を始めたのではないかと考えています。

シェイクアウトは事前に参加人数を市に報告していただく、参加登録制という形をとっています。今回のシェイクアウトは登録者数、登録件数ともに前年から増加し、個人・家族、自治会の登録者数が増えた一方、企業の参加が減少しました。改めて、企業へシェイクアウト訓練の重要性を伝え、市内全体で取り組む必要があります。とりわけ、参加企業を見ると、一般市民が買い物をする小売店の参加率が低い事実がみてとれます。来年のシェイクアウトは土曜日が訓練実施日ということで、多くの来客が見込める、スーパーマーケットを中心にPR活動を実施し、多くのお店と客を巻き込むことで市全体の防災・減災意識の高揚を図ります。

熊本地震、北海道胆振東部地震、大阪府北部地震など、日本各地で頻発して大きな地震が発生している中、幸いにも座間市については東日本大震災以来、大きな揺れに見舞われていませんが、まさしく今この瞬間に地震が発生してもおかしくない状態にあります。また、近年地震だけでなく、風水害のリスクも高まっています。

今年度、座間市においても台風19号がもたらした河川流域への大量の降雨によって城山ダムの緊急放流が行われ、市内西部を流れる相模川の水位の急激な上昇が発生しました。市政初となる避難勧告を発令し、1,000人以上の市民が避難場所へ避難しました。多くの職員を動員し、台風対応、避難場所の対応にあたりましたが、この経験が今回のプラスワン訓練に活かされました。被害想定に対して各部署が業務継続計画に基づき、必要なリソースを見積もり、実践的な訓練が行われました。また、なによりも台風19号対応を経て職員の災害への意識がより一層深化したものになりました。

来年度のシェイクアウト訓練は土曜日にあたります。市役所は休日ですが、市では職員総出でシェイクアウト及びプラスワン訓練を行います。シェイクアウトに併せて避難所開設訓練等、様々な訓練を実施する予定であります。市民、参加団体の皆様には当日は可能な限り訓練を実施して頂ければと思います。当日の訓練実施が難しい場合には、代替期間を定めていますので、この間に、シェイクアウト及びプラスワン訓練を実施していただければと思います。

シェイクアウトを行っていただくことは、もちろん大切ですが、参加する皆さんの地震に対する危機感、訓練の意義をしっかりと理解していただく事こそ大切であり、それがかなわなければ、形式的に行われる訓練に退化してしまいます。いつか必ず起こると言われる大地震に向けて、様々な手法を取り入れながら、工夫して、災害に対する警戒心、関心を呼び起こし、地域、学校、企業等と連携し、シェイクアウトを防災力向上の核として災害に強いまちづくりを進めます。

座間市いっせい防災行動訓練シェイクアウト +1 2020

訓練参加登録団体一覧

保育園・幼稚園等

市立栗原保育園
 市立相模が丘東保育園
 市立ちぐさ保育園
 市立緑ヶ丘保育園
 市立東原保育園
 市立相武台保育園
 市立ひばりが丘保育園
 市立小松原保育園
 市立相模が丘西保育園
 わかば保育園
 座間保育園
 やなせ保育園
 あゆみ保育園
 いその保育園
 広野台保育園
 栗の実保育園
 座間すこやか保育園
 木下の保育園 相武台
 ナーサリースクール T&Y 相模が丘
 麦っこ畑保育園
 スマイルワールド保育園
 マジオたんぽぽ保育園相武台
 座間ゆめっこ保育園
 子どもの家ひまわり保育園
 ナーサリールーム T&Y 相模が丘
 陽の丘保育園
 ひばり乳児園
 保育ルーム フェリーチェ座間園
 保育ルーム フェリーチェ座間Ⅱ園
 座間幼稚園
 やなせ幼稚園

保育園・幼稚園等

相武台幼稚園
 座間孝道幼稚園
 鈴鹿幼稚園
 ひばりが丘幼稚園
 栗原幼稚園
 小松原幼稚園
 東原幼稚園

学校（小学校・中学校・高等学校等）

市立座間小学校
 市立栗原小学校
 市立相模野小学校
 市立相武台東小学校
 市立ひばりが丘小学校
 市立東原小学校
 市立相模が丘小学校
 市立立野台小学校
 市立入谷小学校
 市立旭小学校
 市立中原小学校
 市立座間中学校
 市立西中学校
 市立東中学校
 市立栗原中学校
 市立相模中学校
 市立南中学校
 県立座間高等学校
 県立座間総合高等学校
 県立相模向陽館高等学校
 県立座間養護学校

座間市いっせい防災行動訓練シェイクアウト +1 2020

訓練参加登録団体一覧

医療・福祉関係

愛の家グループホーム座間
 愛の家グループホーム座間西栗原
 医療法人興生会 相模台病院
 医療法人聖医会 相模台クリニック
 医療法人社団一真会 座間厚生病院
 医療法人社団昌栄会 相武台病院
 NPO法人宝島
 ガーデンテラス座間
 ケアセンター憩
 グループホームあいち
 グループホームイー・ケア座間
 グループホーム小松原
 座間デイサービス小松原
 障害者総合福祉施設アガペセンター
 社会医療法人ジャパンメディカルアライアンス 座間総合病院
 社会福祉法人敬心会 特別養護老人ホーム栗原ホーム
 社会福祉法人敬心会 栗原ホーム第2ケアセンター
 社会福祉法人座間市社会福祉協議会
 就労支援B型アンダンテ
 SOMPOケア ラヴィーレ座間
 地域活動支援センターかざぐるま
 デイサービス オレンジクラブ
 デイサービス カナンの家
 デイサービス ユース座間
 特別養護老人ホーム座間苑
 特別養護老人ホーム太陽の家座間
 有限会社ケアハーモニー
 有限会社ふれんどりい
 リビング暖らん
 レコードブック座間相模

企業・企業組合

アスビル株式会社
 イオンモール株式会社 イオンモール座間
 エスケー化研株式会社 神奈川工場
 株式会社ウォーターエージェンシー
 株式会社かおる建設工業
 株式会社京三製作所 座間工場
 株式会社ダイエー 相武台店
 株式会社大気社
 株式会社東計電算 座間営業所
 株式会社日本色材工業研究所
 株式会社ファーストK 緑ヶ丘営業所
 株式会社フリップアップ
 株式会社マグトロニクス
 株式会社ミック・ケミストリー
 株式会社南東京自動車
 株式会社ミノファーゲン製薬
 株式会社ユーテムプレシジョン
 きものの靴屋
 協同組合SIP座間インフィニティ
 光文書院流通センター株式会社
 大同油脂株式会社 相模工場
 東電タウンランニング株式会社
 東邦電機工業株式会社
 日精オーバル株式会社 相模工場
 升屋酒店
 三木プーリ株式会社
 森銅コード株式会社 座間工場
 山下マテリアル株式会社
 有限会社座間交通

座間市いっせい防災行動訓練シェイクアウト +1 2020

訓練参加登録団体一覧

官公庁

神奈川県 座間警察署
 陸上自衛隊 座間駐屯地
 座間市役所
 青少年センター
 公民館
 北地区文化センター
 東地区文化センター
 図書館
 ハーモニーホール座間
 スカイアリーナ座間
 リサイクルプラザ
 座間児童館
 鳩川児童館
 ひばりが丘南児童館
 相模野児童館
 相模が丘コミュニティセンター
 小松原コミュニティセンター
 ひばりが丘コミュニティセンター
 東原コミュニティセンター
 相武台コミュニティセンター
 栗原コミュニティセンター
 立野台コミュニティセンター
 新田宿・四ツ谷コミュニティセンター
 市民交流プラザ（プラっとざま）
 子育て支援センター ざまりんのおうち かがやき
 子育て支援センター ざまりんのおうち ひまわり
 子育て支援センター ざまりんのおうち ゆめ

自主防災組織や自治会等の地域グループ

長安寺自治会
 新田宿第3自治会
 四ツ谷東自治会
 四ツ谷北自治会
 上宿東部自治会
 中宿東部自治会
 中宿中部自治会
 下宿第2自治会
 下宿第3自治会
 河原宿東部自治会
 河内自治会
 中河原自治会
 鈴鹿自治会
 長宿西自治会
 長宿北自治会
 座間入谷ハイツ自治会
 コスモ相武台サニーサイド自治会
 ライオンズマンション座間自治会
 相武台西パーク・ホームズ自治会
 明王自治会
 上谷戸自治会
 中谷戸自治会
 武蔵住宅自治会
 星の谷第1自治会
 星の谷第2自治会
 大門自治会
 皆原北自治会
 皆原東自治会
 皆原南第2自治会
 ミオカステー口座間自治会
 桜田住宅自治会

座間市いっせい防災行動訓練シェイクアウト +1 2020

訓練参加登録団体一覧

自主防災組織や自治会等の地域グループ

旭台自治会
 中天台西自治会
 中天台北自治会
 アメニティ座間自治会
 信販座間自治会
 中峰自治会
 西中峰台自治会
 天台東自治会
 天台西自治会
 中天台東自治会
 天台下自治会
 新羽根沢自治会令和元年役員会
 東建ニューハイツ座間自治会
 東建座間ハイツ防災会
 東建入谷自治会
 立野台東自治会
 立野台西自治会
 立野台南自治会
 立野台北自治会
 立野台上自治会
 立野台中自治会
 立野台下自治会
 市営立野台自治会
 親和会自治会
 立野台西ノ原自治会
 第一住宅相武台団地自治会
 緑ヶ丘南自治会
 緑ヶ丘六丁目自治会
 緑ヶ丘中央自治会
 小田急相武台南自治会
 相武台緑ヶ丘自治会

自主防災組織や自治会等の地域グループ

さつき自治会
 わかば自治会
 新緑ヶ丘自治会
 相武台自治会
 小池自治会
 相和会自治会
 北武台自治会
 相武台中央自治会
 相武台12自治会
 エコハイム相武台自治会
 ソフィア相武台自治会
 広野台第2自治会
 広野台第3自治会
 リビオシティ自主防災会
 広野台自主防災会連絡協議会
 相模が丘第1自治会
 相模が丘2丁目自治会
 相模が丘二丁目自主防災会
 相模が丘二丁目地区社協
 相模が丘3丁目自治会
 相模が丘5丁目自治会
 相模が丘第4自治会
 カーサ相模台自治会
 エステスクエア小田急相模原自治会
 小松原自治会
 ゾンネンハイム・ヴィラ自治会
 ひばりが丘2丁目自治会
 ひばりが丘3丁目自治会
 ひばりが丘5丁目自治会
 東原団地自治会
 ひばりが丘第1自治会

座間市いっせい防災行動訓練シェイクアウト +1 2020

訓練参加登録団体一覧

自主防災組織や自治会等の地域グループ

ひばりが丘第2自治会
 ひばりが丘睦自治会
 さがみ野式番館自治会
 エステ・スクエアさがみ野自治会
 モラーダさがみ野自治会
 エステ・スクエア南林間自治会
 芹沢北自治会
 芹沢東第1自治会
 芹沢東第2自治会
 東原中央自治会
 六棟会自治会
 あずま住宅自治会
 ハイムさがみの自治会
 アトレさがみ野自治会
 さがみ野さくら自治会
 東原3丁目北第5自治会
 東原3丁目北第6自治会
 東原3丁目北第7自治会
 東原3丁目南自治会
 さがみ野中2自治会
 座間さがみ野団地自治会
 さがみ野第1自治会
 さがみ野第2自治会
 さがみ野第3自治会
 市営栗原住宅自治会
 東原ドミトリー自治会
 クリオさがみ野伍番館自治会
 上栗原自治会
 グリーンタウン自治会
 中栗原第1自治会
 中栗原第2自治会

自主防災組織や自治会等の地域グループ

ハイム座間中谷自治会
 中栗原第3自治会
 西栗原第1自治会
 西栗原第2自治会
 ハイム座間西原自治会
 東芝中原独身寮自治会
 レックスガーデンヴィラ自治会
 芹沢第1自治会
 芹沢第2自治会
 いづみ自治会
 下栗原北第1自治会
 下栗原北第3自治会
 ファミネスさがみ野自治会
 コスモさがみ野自治会
 下栗原中第1自治会
 南栗原大下第1自治会
 クリオさがみ野八番館自治会
 大下西の原自治会
 大下南台自治会

その他・任意団体

一般社団法人座間市観光協会
 オカリナ・ピーポの会
 神奈川県隊友会県北支部座間分会
 国際ソロプチミスト座間
 在日米陸軍基地管理本部
 ざま災害ボランティアネットワーク
 座間市自治会総連合会
 座間市ボランティア連絡協議会
 座間市民生委員児童委員協議会
 東建座間ハイツ管理事務所

2020.01.23 am 11:00 START

座間市シェイクアウト

認定番号 200001 号



The Great Japan

〔日本公式〕シェイクアウト

Shake Out

座間市いっせい防災行動訓練
シェイクアウト プラス1 2020 in ZAMA

参加団体訓練実施アンケート結果

アンケート回答協力団体：107団体

i. 回答団体内訳

保育園・幼稚園	26	医療・福祉関係	22	自主防災組織や自治会等の地域グループ	4
学校（小・中・高）	19	企業	15	その他・任意団体	4
官公庁	17				

ii. 回答団体の訓練実施場所（複数回答）

相模が丘	14	栗原	3	立野台	3
小松原	8	栗原中央	5	入谷西	5
ひばりが丘	9	南栗原	4	入谷東	6
東原	6	西栗原	1	四ツ谷	3
さがみ野	1	緑ヶ丘	6	新田宿	1
相武台	11	明王	1	座間	11
広野台	5				

iii. 本訓練を知ったきっかけ（複数回答）

ホームページ	47
広報さま	40
自治会回覧	12
自治会掲示板	1
公共施設の掲示	11
新聞・タウン誌	3
ぼうさいカフェ	6
地域・職場の人から聞いた	1
市職員・ざま災害ボランティアネットワークの広報活動	54
その他	21

iv. 登録人数に対する、実際の訓練実施者の割合

① 予定以上の人が実施 (登録数以上)	4%
② ほぼ予定通りの人数が実施 (9~10割)	72%
③ 実施できないものもいたが、おおむね実施 (7~8割)	14%
④ 約半分くらいの人数で実施 (4~6割)	7%
⑤ 実施した人数の方が少なかった (2~3割)	3%
⑥ 登録したがほとんど実施しなかった	0%



v. 訓練開始の合図として設定したもの（複数回答）

防災行政無線	50
防災ラジオ	5
放送設備	46
携帯電話のアラーム	1
目覚まし時計	1
時間をもって開始	20
その他	5

vi. 防災行政無線からのサイレン（訓練開始合図）は聞こえましたか？

① 屋内にいて、窓を閉めていた状態で聞こえた	54%
② 屋内にいて、窓を開けた状態で聞こえた	11%
③ 屋外にいて聞こえた	1%
④ 屋内にいて、窓を閉め切った状態で聞こえなかった	23%
⑤ 屋内にいて、窓を開けた状態で聞こえなかった	4%
⑥ 屋外にいて聞こえなかった	1%
⑦ 振替実施を行った	6%



vii. 安全行動後のプラスワン訓練の実施（複数回答可）

避難訓練	34	住居・施設等の安全点検	8
安否確認	43	実施していない	33
備蓄物資の確認	25	その他	13
初期消火	12		

viii. 来年度もシェイクアウト訓練に参加していただけますか？

①安全行動とプラスワン訓練を実施したい	64%
②安全行動訓練のみを実施したい	17%
③必要性について再度検討してから決める	3%
④参加しない	2%
⑤日付を変えて実施したい	12%
⑥その他	2%



ix. ご意見・ご要望等

<p>・毎月1回は、保育園で避難訓練を行っていますが、今回のように市全体の訓練も実際にサイレンを聞いて自分の身を守る大切な訓練だと思います。子どもたちは、だんご虫のポーズをとって避難し、ヘルメットをかぶる練習も出来ました。大きな地震が来ない事を願いながらも、万が一に備えて訓練をしていきたいと思っています。</p>
<p>・防災意識を高める一つの良い機会だと思います。今後ともよろしく願いいたします。</p>
<p>・毎年、参加させて頂いています。保育園内では毎月避難訓練をしています。訓練は何回あっても良いのでこれからもよろしくお願いします。</p>
<p>・土日が閉所の為、来年度の参加できそうにありません。開所日実施の場合は参加させて頂きたいと思っています。</p>
<p>・来年度は、今年度、取り組んだ際の反省を生かして再度戸惑う事なく、取り組んでいけたらと思います。</p>
<p>・他施設での訓練も参考になるので、状況を聞いてみたいです。</p>

・相模向陽館避難所運営委員会で避難所開設訓練の時も防災訓練（シェイクアウト）を自宅で実施してから、一時（いつとき）集合場所に集まり、参加確認（安否確認）を行い全員で避難所に行く訓練を行ってしますので、防災行動訓練（シェイクアウト）を年2回実施しています。

・実施時間になっても合図が聞こえないため、園内放送機器を使って合図した。地域の防災行政無線が届きにくい場所に施設があるからなのか。（施設の南側に、20階建てのマンションがある）

・立野台コミセンでは例年、シェイクアウトにあわせて消防訓練を行っています。今年度は2月にAED訓練も含めた消防訓練を予定している為、プラスワン訓練は実施しませんでした。火災が多くなる冬に、毎年必ず『1月23日』と決まっているのは、とても覚えやすいですね。

・災害はこちらの都合で起きるわけではないので、できるだけ指定の日時で行いたいと考えていますが土曜日は登園者が少なく、けれど土曜日でも夜でも災害の発生する可能性はあり迷います。参加者が極端に少なくても土曜日に行うのが良いのかなとも思いますが。（その分家庭で参加してもらえよう広報はするつもりでいますが）シェイクアウトは定着してきていて音源を利用しています。ありがとうございました。

・次回は写真撮ります。年に2回ぐらいあってもいいように思います。

・防災グッズの不足を痛感した、ヘルメットや防災頭巾などの準備がないため今後検討した方が良かった。

・震度7の想定で実施したが、あまりに想定外なため、被害状況の報告が難しい。こういう訓練で今後いいのか疑問に思う。

・昨年の実施時、会館利用者から（部屋の窓を閉めた状態で）外の防災放送も聞こえないし、館内の案内も何もなかったと指摘いただき、今年は防災ラジコに機器を接続して、全館にラジオが聞こえるように工夫しました。ただし、これは訓練に参加しやすくするための一時的な処置で通常であれば、やはり、地域にある防災無線もセンターに設置されているラジオも利用者には届かないと思います。建物の中においても緊急を伝えるものがもう少し聞こえやすい環境になってほしいと思います。

・事前にポスターをお送りいただきありがとうございました。玄関に貼り、スタッフやご家族等への周知ができました。このような訓練の場を設けていただけると、災害について今一度考え、スタッフ皆との意見交換ができ万が一のことがあっても少しでも落ちついて行動できると思えました。

・例年よりも実践的な訓練を目指して、生徒には実施日のみを伝え、訓練開始時刻を知らせず実施しました。実施後に、生徒・教職員にアンケートをとったのですが、地震発生直後取るべき行動、適切な避難行動について、事前指導の必要性を強く感じました。来年度は、大規模に実施するとのことで、本校もできる限り協力させていただきたいと考えております。今後ともよろしく願いいたします。

・防災に対しては関心は高く、何とか安全な事業所にしたいと思っているのですが、市からの補助金事業であるため備蓄や備品への予算がとれず、困っています。福祉事業所に対して優先して配布していただけるものや、購入をサポートするものはないでしょうか。知的障がいを持った方々は慣れない場所、人、予定外のことにパニックをおこします。建物が使える限り、動かず、じっと待っていることになるでしょう。避難所である立野台小学校の避難訓練の見学（参加）ができれば安心なのですが。

・今後も喜んで参加させて頂きます。入居者さん達も防災頭巾をかぶって参加して下さいました。

・毎回、シェイクアウトに参加しておりますが、非常にためになります。ありがとうございました。

・防災無線は窓を開けた状態で子どもたちは静かにしていたが音量は小さく聞こえづらかった。

・お疲れ様でした。シェイクアウトの内容については、さまざまな意見があるようですがハードルの低い事業を市民にやってもらうことは意識改革の第一歩としてとても重要なことだと思います。これからもぜひ続けてください。

・シェイクアウトの実施で、もっと市の方でPRをしていただきたい、又、訓練開始の合図を、もっと大きくわかりやすいようにしてもらいたい。場合によっては、市の職員を派遣するなどしてもらおうと、もっと盛り上がると思います。シェイクアウトの重要性は一人一人わかると思いますので。

・開始時間 11 時への対応が少し難しかったです。次回再度調整しながら取り組めればと考えております。